

1. 2014年度報告

2014年度学校目標は下記の項目を事業目標に掲げました。

1. Waseda Vision 150 に基づく高等学院の将来構想の具体化
2. SGH(スーパーグローバルハイスクール)指定に伴う構想の具体化
3. 日常教育活動全般の充実と改善
4. 中学部と高校の円滑な接続
5. 高校新教育課程の適切な実施
6. Waseda Vision 150 で改革を進める本部・各学術院との連携強化
7. より開かれた学校向けの施策
8. 第2期工事の順調な進捗と第3期以降の展望
9. 大地震への備え、および生徒教職員の安全確保

新教育課程の実施に伴い英語、数学の授業時間が増加し、さらに TOEFL-ITP、または TOEIC-IP を全員が受験するようになりました。グローバル社会において「自律」を通じて「自立」を促す教育をさらに推進していくために SGH(スーパーグローバルハイスクール)事業に応募し、文部科学省より指定を受けることが出来ました。これによって今年度から5年間にわたって、さまざまな形で生徒の活動にたいする支援が手厚くできるようになりました。中国や韓国へはもちろん、PASCH や COLIBRI プログラムを通じて独仏への生徒派遣だけでなく、チェコ、ウルグアイなどから留学生を受け入れるなど、国際交流はさらに広がりました。また、本年度は12月に、高等学院としては初めてロシア(サンクトペテルブルグ)の学校と協定を結び、これまでの日露青年交流センターによる交流に加えてさらに可能性を広げることが出来ました。

中学部を設置して6年、出身者が高校3年生になりました。授業・行事を工夫しながら早稲田の中核として活躍できる人材・世界に貢献できる人材の育成に努めてきました。また、本年は春から夏にかけて講堂、体育館などが竣工、第2期工事が終了し、年度末の3月にはグラウンド整備も終わることが出来ました。この環境を最大限利用して、生徒がより多様な経験の出来る学校づくりをしてきました。

東日本大地震から4年経ち、災害体験の風化が懸念されます。本年度体育館竣工に伴い、備蓄品の保管等、格段に災害に対して適切な対応ができるようになりました。今後、予想される直下型地震などに対して、防災に関してさらにつよい学校とすることができました。

2. 2015年度計画

グローバルリーダーの育成を目指したプログラムの開発と実施

SGH(スーパーグローバルハイスクール)のプログラムを利用し、国内外のフィールドワークを実施します。国内研修は歴史的な海外交流と現在起こりつつある国内集住地域の研究、海外では「移民との共生」をテーマにオーストラリアの実情を研究対象にしています。事前学習、現場、事後学習、成果発表などを通じて多文化共生社会の実情を様々な角度から体験し、研究成果発表に結び付けていく予定です。

またオンデマンドコースのコースナビ上でのコンテンツ配信を開始し、生徒の学習活動、体験活動に活かしていきます。複数の教科もグローバルリーダー育成を目指した内容を扱っていきます。

新教育課程と教育内容の向上

2015年度に新教育課程の完成年度を迎える。英語・数学の授業時間数増やその他の変更を、教育課程外の活動と合わせて、学力・人間力の向上に結びつけるようにしていきます。

学校のオープン化推進

これまでも大学との連携だけでなく、地域、OB等との協力が多く見られたが、社会人や企業、また在外公館などからも支援をいただき、さらなるオープン化を進めていきます。そのことにより、生徒の体験を多様化・深化させ、動機付けのみならず実質的な能力向上に結び付けていきたいと考えています。

情報発信の強化

受験生だけでなく学外者に対して、幅広く様々な媒体を通しての情報発信を強化していきます。HP等を通じて、現在の学校の様子をより的確に伝えていくことはもちろんですが、それ以外でこれまでに以上に積極的に学校を紹介していく予定です。HPについては内容充実・多言語化を図り、本年度中にも日本語・英語以外に、独・仏・露・中でもアクセスできるようにする予定です。

2期工事後のキャンパスの運用と今後の展望検討

第2期工事の竣工と共に、現行キャンパスのより効果的な運用を図っていきます。教育環境の観点からのみならず、防災・減災からも今後第3期工事を展望していきます。